

## 第1回 三保地区景観計画ガイドライン策定懇話会 議事録

開催日時： 平成 26 年 6 月 30 日(月) 15:30～17:30

開催場所： 静岡市役所本庁舎 3階第1会議室

出席委員： 川口 宗敏 会長  
土屋 和男 委員  
櫻田 芳宏 委員  
坂野 真帆 委員  
天野 光一 委員  
森田 みか 委員  
森 美佐枝 委員

- 次 第： 1 開 会  
2 建築総務課長挨拶  
3 懇話会の設置について  
4 自己紹介(1人2分以内)  
5 事務局説明  
(1) 静岡市の景観行政の概要について  
① 景観法について  
② 静岡市景観計画による取り組みについて  
③ 静岡市の屋外広告物への取り組みについて  
(2) 各路線の現況と課題について  
① 三保街道、羽衣海岸線、塚間羽衣線の現況について  
② 参道、神の道の現況について  
(3) 三保地区景観計画ガイドラインの策定について  
① 三保地区景観計画ガイドラインの概要及び策定方針について  
② 今後の策定業務の内容について  
6 意見交換  
(テーマ)  
① 景観まちづくりの意義について  
② 三保地区の景観を考える上での視点、ポイントについて  
③ 路線特性ごとのあるべき姿について(屋外広告物、外構、建築物、道路区域)  
④ 住民主体のまちづくりの重要性について  
⑤ 進めていく上での課題について  
⑥ 景観の視点での三保地区の将来像について  
7 次回開催について  
8 閉 会

配布資料： 1 次第  
2 懇話会委員名簿  
3 席次表

- 4 資料1 懇話会設置規約
- 5 資料2 スライド配布資料
- 6 資料3 路線別現況写真及び景観資源図
- 7 資料4 用途地域図
- 8 資料5 高度地区図
- 9 資料6 名勝規制図
- 10 資料7 富士山世界文化遺産構成資産範囲図
- 11 資料8 今後の策定業務の内容
- 12 屋外広告物のしおり

## 【議事録】

### 1 開会

### 2 建築総務課長挨拶

(建築総務課長による挨拶)

### 3 懇話会の設置について

(事務局より、懇話会の設置について説明)

### 4 自己紹介

(各委員による自己紹介) ※土屋委員については所用により遅刻

(川口会長より、天野委員を職務代理者に指名)

### 5 事務局説明

(事務局より「(1)静岡市の景観行政の概要について～(3)三保地区景観計画ガイドラインの策定について」を説明)

### 6 意見交換

天野委員 5路線を中心にガイドラインを策定していくということだが、例えば、羽衣海岸線はどこまで計画が決まっているのか。線形や断面構成は決まっているのか。

事務局 断面は決まっている。

天野委員 詳しい断面構成を教えて欲しい。断面構成が決まっている中で、何を話し合っ決めていくのか。

事務局 何ができるのかということを含めて探っていきたいと考えている。例えば、色は考えられる。

櫻田委員 断面構成は決まっており、平成30年には完成予定と聞いている。

川口会長 道路区域以外の部分は、沿道住民が決めていけないといけない部分がある。その辺りは、どういう風にまとめていくのか。この懇談会で決めても、役所が勝手につくったと言われると困る。ここで色々議論しても意味がなくなる。

事務局 役所が前面に出て策定を進めていくと、うまくいかないと考えている。ここで検討した内容も地元伝えていく。地元は3地区ぐらいに分けて細かく聞いていくつもりである。今年はガイドラインを議論し、来年、基準を検討していくことを考えている。

川口会長 沿道住民と一緒に考えて、つくったということにしていけないといけない。

- 事務局 危惧することはわかる。地元の意見を踏まえた内容にしていかないと、実行力のない内容になってしまう。
- 川口会長 柔軟性をもった進め方をしていけないといけない。懇談会で話し合っ、理想的な案を目指す強制力が強いものになってしまう。それで地元と調整し、まとめる時にうまくいくのか不安がある。
- 森田委員 塚間の渡しから延びる参道の扱いは難しい。現在では、参道の面影が残っていない。行政主導で可能性がある路線を進めていった方が話は進むのではないかと。神の道をモデルとしてやっていくことで、他の地区の見本になるのではないかと。
- 坂野委員 5路線全て取り組むのは難しく、特に参道はやる必要があるのか。理想的なイメージはつくることができるが、現実とかけ離れ過ぎるのではないかと。  
誰のためのガイドラインなるのかを決めた方が良い。住民と観光客の住み分けが必要で、観光客が増えることで住民に迷惑が掛かる部分もある。  
静岡市の景観計画に祭りやイベント等の活動景観が位置付けられており、それも一つの景観資源としてクローズアップしていけると良い。
- 森委員 神の道を整備した当時に係わっていた。最初、あそこをライトアップしたいという話だったが、それでは意味がないということになり今のボードウォークの道をつくった。それだけでも、すごく大変だったのに今回、5路線をやるのは大変なのではないかと。
- 川口委員 当時の沿道住民はどういう反応だったのか。
- 森委員 住民は参加していなかった。住民が入るとなかなか進まない部分もある。  
羽衣海岸線は、自転車道にするという話ではなかったか。
- 櫻田委員 自転車道も整備される。  
参道は江戸から大正までは御穂神社の参道として使われていたが、現在は地元もそういった意識がない。一の鳥居が台風で倒れて建替えた際、現在の地元に住んでいる人ではなく、アメリカに移り住んだ元三保の人たちが必死に取り組んでくれた。アメリカのカリフォルニアには三保出身の人たちで結成している三保の会というのがある。現在の参道を、参道として復活することはやめた方が良い。御穂神社周辺や神の道、三保街道、羽衣海岸線に絞った方が現実的である。
- 土屋委員 (所用で途中出席のため、自己紹介)  
羽衣の松は御神木となっているが、一般的な神社とは逆で参道の逆側に位置している。昔は清水湾全体が一つのエリアとなっており、船での行き来が多かったので塚間の渡しも機能しており、参道も機能していた。道だけを参道のように整備しても機能しない。アクセスの楽しさも考えていけると良い。
- 天野委員 5路線が挙げられているが、その性格も全然違う。三保街道がメインの道路になり、神の道は別格の扱いになる。羽衣海岸線は、観光客のルートになるのかどうかなどを位置付けていく必要がある。自転車道にしても、観光客が自転車を使って散策できるルートにあり得るのかなどを考えていかないと、現在検討している断面構成が良いのかわからない。
- 櫻田委員 地区内には、現在、三保街道しか幹線道路がなく、羽衣海岸線は幹線道路になる予定である。防災面でも重要な道路になる。

- 天野委員 幹線道路になるのであれば、事前に土地利用や看板を規制しておかないといけない。幹線道路が通ると、近隣商業地域などに用途変更され、色々なものが建ってしまう。
- 川口会長 先に、厳しい規制をかけておく方が良い。
- 天野委員 検討していくにしても、路線毎に検討していかないといけない。羽衣海岸線は、優先度を先にした方が良い。出来れば、土地利用を規制し、それが難しいようであれば、看板だけでも規制した方が良い。
- 川口会長 ガイドラインをつくるにしても、道路別で作成した方が良い。また、道路だけでなく、塚間の渡しから海が見えないので、拠点整備もした方が良いのではないかと。
- 櫻田会長 塚間の渡しは朝や晩は実際に使われており、門も開き棧橋がある。日常的には津波の関係で閉められている。
- 土屋委員 海側から来ると面白い眺めである。
- 川口会長 拠点整備もやっていく必要がある。今回の景観の検討の中で、駐車場もどうするべきかを検討していけるのか。駐車場のあり方も検討していく必要がある。
- 櫻田委員 現在の駐車場の場所に資料館をつくるという話が出ている。現在のお土産物屋さん用途地域上、違法建築になっているはずなので、資料館を整備する際に面整備をして欲しい。
- 天野委員 羽衣海岸線が整備されると、歩行者ルート等はどこがメインのルートになるのか。このガイドラインで歩行者ルートまで決めることはできないが将来像を見据えて、短期と中期で出来ることに対応していかないといけない。整備条件やそれぞれの役割を整理して進めないといけない。
- 川口会長 各路線の性格付けや短期・中期でやるべきことを決めていく必要がある。三保街道だけでも住民合意に持っていけるかどうかを検討しないといけない。世界遺産に指定されたこの機会なので、ここで積極的に進めていく必要がある。観光と地域住民は、なかなか相容れない部分なので、どこかで折り合いをつけていかないといけない。単に先進事例のように進めるのではなく、世界遺産に指定されたという意味を持って進めていく必要がある。
- 櫻田委員 観光も個人観光客とツアーでは内容が変わってくる。ツアー客は駐車場で降りて、神の道を歩いたら御穂神社の付近でバスが待っていて、帰っている。
- 坂野委員 高齢者は、体力的にも往復するのが難しい面もある。
- 天野委員 観光客についても、どの観光客をターゲットにするのかを考えないといけない。
- 坂野委員 来てもらう観光客をこちらが選ぶことも必要になってくる。
- 天野委員 ツアー観光か個人観光かどちらを目指すかによって整備も変わってくる。今の時代に観光バス主体の整備は無理があると思う。30年前に観光バス主体の整備を進めた観光地を今更、辿ることになる。駐車場についても、もっと手前に設けて、そこからシャトルバスやライトレールで中まで来てもらうことも考えないといけない。
- 森田委員 地元が世界遺産の街として誇れるまちづくりを進めていく必要がある。
- 坂野委員 今の観光客をターゲットにしても、羽衣の松だけ見えていて、御穂神社すら見ていない。
- 川口会長 住民が納得できる進め方はどういった方法があるか。
- 櫻田委員 まずは各自治会長に共通認識を持ってもらう必要がある。世界遺産になったことで、住民も

関心は高いと思う。ガイドラインを進めていくのも共通認識を持ってもらう必要がある。

川口会長 今日の見解をまとめてもらい使えそうな内容を進め方やガイドラインに反映してもらおう。

事務局 次回は9月中の開催を予定している。日程については後日調整させてもらう。

以上